

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年6月27日

事業所名 リンク大和東教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		マンツーマン並びに療育時間の入替をしている。	児童発達支援・放課後等デイサービスの児童が時間帯により、相席する事がある。運動の療育時にホールを使う時は他者との接触事故の回避を
	2	職員の配置数は適切である	4			運営状況に合わせて職員配置を厚くする必要がある。また、他の職員が入っても対応できるようゆとりがある時に、担当外の職員が利用者と関わる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	2	利用者の特性に合わせて、活動部屋のレイアウトや椅子・机の位置を職員と話し合い、調	エレベーター・トイレの狭さがあり、職員が介助する際には検討が必要。不測の事態に備え、手の届く箇所に備品を置き、対応していく。エレベーター開閉の際、お子様が一人で操作してしまわないよう注意が必要。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4		利用者対応は、朝礼・終礼・個別支援会議で、計画・実施・結果・検討を行っている。毎月面談が実施され、各職員が意見を伝える機会設けられ	月1回の会議は実施している、全体業務改善についての目標設定・振り返りを行う時間等共有する時間を増やしていく。各職員に業務改善を提案し、検討する場を設けていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		4	療育時間についてのアンケートを実施し、適切な療育時間を検討している。保護者様のご要望など職員間で共有し、その都度対策を立ててい	昨年から開始した事業所の為、今年度から自己評価結果を公表する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		4	実施予定。	昨年から開始した事業所の為、今年度から自己評価結果を公表する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		第三者評価は未実施のため、今後検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		外部研修を全職員が実施。OJT並びに定例会議でセラピスト作成の研修を受けている。研修に対し、積極的な参加を奨励されている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4		相談支援事業所の利用計画の確認。保護者のニーズ、セラピストと療育職員による利用者の評価を実施している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		専用ソフトを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		個別支援計画書会議で活動内容を含め、話し合っ	個別療育の為、担当職員以外の職員が入る時の細やかな引継ぎを進めていく。
12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		机上課題・運動課題の担当を振り分けている。	運動・机上課題を行う目的を保護者に分かりやすく説明していく。	
13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4		季節や長期休暇に応じた課題を実施している。学校が休みの日にセラピストが介入できるよう、児発管が時間案内・日程調整な	長期休暇の中での課題(1日の過ごし方・宿題など)を設定し取り組めていけたら良い。	

適切な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	1		個別療育に特化している為、集団活動はしていないが、園・学校での様子を聴き取り、集団で適応できる事を提案していく。療育は個別対応だが、計画書では常に集団活動も想定して作成している。今後、療育の中で集団プログラムも提供していきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		療育・清掃担当者を決めて進めている。朝礼にて、各職員が報告・確認し合っ	非常勤：児発管と自分の予定の報告・確認は行っているが、他職員の予定を詳しくは分からない。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		欠席者も共有できるように、Web上でのソフトを利用し記録もしている。終礼にて、振り返りや次の日の予定など共有している。	最後ではなく、早めに時間を設け、時間のゆとりをもって情報を確認できたら良い。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		療育担当者が記入し、児童発達支援管理責任者・セラピストが支援内容を確認している各職員が責任をもって記録を行い、児発管がチェックしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4		毎月セラピストが療育に入り、支援計画内容の見直しの必要性を適宜検討している。セラピストによるモニタリングを実施。変化点など担当者・児発管と話し	見直しの必要性が生じた時、保護者にも分かりやすく伝えていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4		保護者・本人のニーズをくみ取る事も含め、言語・運動・巧緻性課題をチームで計画し、苦手な部分を補い、得意な部分を伸ばす支援を実施。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		担当職員と児童発達支援管理責任者と話し合いを持ったうえで、相談支援専門員と共有している。必要に応じて、相談支援専門員にも来所してもらい、話し合っている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	1	必要に応じて、保護者様の同意の下、該当児童のスクールカウンセラーや担当教員に施設での支援内容を共有している。送迎を行っていないが、保護者様から学校の情報を適宜伺うようにしている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	1		医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の利用がない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4		必要に応じて、支援内容の情報提供を実施している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		4		学校卒業に伴い、障害福祉サービス事業所に移行する該当児童は現状いないが、未来で起こりうる事を想定し、検討していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4		児童発達支援部会に参加し、助言や研修を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4	運動を支援する為、近隣の公園に行く事はある。	コロナ情勢に合わせて最適な療育環境を選択できるようにする。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4		定期参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		療育後に保護者へのフィードバックを実施している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4		研修を受けた職員が、他職員に研修情報を共有している。不定期でセラピストからのお話し会を実施し、家庭でできる支援を提言している。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		管理者が契約時に説明を行っている。	
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		療育後に保護者へのフィードバックを実施している。		

保護者への説明責任等

32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	不定期でセラピストからのお話し会を実施し、家庭でできる支援を提言している。	コロナ禍により、保護者同士が集まる機会を多く設けられてないが、お話し会から保護者同士が話し合える機会を検討していく。
33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	保護者とのフィードバック時に相談があった際は、管理者への報告、終礼で経過報告をした上で保護者様に解答している。	
34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	月刊誌で毎月の少人数行事や職員への発信。法改正や職員体制が変更する際に通知文を保護者に発信し、管理者の方で報告している。	
35	個人情報に十分注意している	4	個別支援計画書会議での必要な資料はファイルに収め、不必要な書類はその場で確認し、処分している。	
36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	保護者様のニーズに合わせて、療育フィードバックの説明の仕方を話し合い、伝達している。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1	避難訓練マニュアルを1年に2回確認している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	1		次回、避難訓練を2021年7月に実施予定。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		新任職員研修で実施。	定期的な虐待防止チェックリストを記入していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		アセスメントシートにて情報共有している。	ハウスダストアレルギーのお子様に配慮し、空気清浄機やエアコンを含めて清掃をこまめに行う。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		毎月の定例会議で共有している。	職員間でのヒヤリハットに繋がる線引きを統一化し、事例から環境調整を図っていく。